

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年6月17日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定第4676100243号		
法人名	社会福祉法人 真奉会		
事業所名	グループホーム あもり		
所在地	鹿児島県 霧島市 隼人町 内2075番地 2 (電話) 0995-43-8700		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年6月10日	評価確定日	平成21年6月27日

【情報提供票より】(平成21年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 9 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 16人 非常勤 3人	常勤換算18.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	1,000 円	その他の経費(月額)	300 円
敷金	有()円 ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	18名	男性 3名	女性 15名
要介護1	4名	要介護2	4名
要介護3	3名	要介護4	6名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 84.9歳	最低 69歳	最高 96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	加治木温泉病院・加治木記念病院・徳永医院・井出歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路に面して、広い敷地に中庭を挟み、2棟のホームがある。隣接して障害者の就労支援事業所などがあり、看護師や栄養士など協力関係が築かれている。協力病院の医師との連携が取れ、入居者は健康面など安心して過ごしている。夏祭りや花見、日帰り温泉旅行など計画し、家族や地域住民との交流も図られている。職員と入居者は共に過ごし、学び、支え合う関係が築かれているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議などを活かした取り組みや運営に関する家族の意見の反映など改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は職員に自己評価について説明し、用紙を配布し全員で取り組み改善点について話し合った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議での、「行事計画を早めに連絡してほしい」との家族からの意見を受けて、「あもり便り」に行事計画の内容などわかりやすく案内し、家族の参加などに活かす事ができた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に、苦情・相談窓口について説明しており、面会時や電話等で意見や要望を聞くように努めている。家族会や運営推進会議において、意見を聞く機会を設けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域住民への挨拶や声かけを心がけている。中学生の体験学習の受け入れや、法人主催の夏祭りに地域住民にも参加を呼びかけ、交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念を見直し、地域密着型サービスとしての役割を位置づけ、地域の中でその人らしく暮らしつづけることを支えていく、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホールの見やすいところに掲示し、採用時に理念について説明し、理念を基に日々のケアを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域住民への挨拶や声かけを心がけている。中学生の体験学習の受け入れや、法人主催の夏祭りに地域住民にも参加を呼びかけ、交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は職員に評価について説明し、全員で取り組んでいる。しかし自己評価からの気づきが具体的な改善に活かされるに至っていない。	○	自己評価からの気づきについて、具体的な改善に活かされるように取り組むことが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に多くの参加者を得て開催しており、そこで出た意見を、運営に活かしている。運営推進会議の内容を家族にも報告している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に日頃より解らないこと等相談している。市主催の福祉イベントに参加したり、地域包括支援センターとも連携しながら、ともにサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の生活の様子や健康状態など面会時や電話等で個別に話している。毎月「あもり便り」を発行し、分かり易く写真等掲載し、行事の様子や職員の紹介等している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会や運営推進会議に家族も参加してもらい、意見や苦情を表す機会を確保している。面会時に、要望や意見を聞くよう努め、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は採用時の面接に立会い、離職を最小限に抑えられるよう努めている。勤務体制など工夫し、離職者による入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修後は研修報告を行い、全職員で内容を共有するようにしている。ホーム内の勉強会も計画し、サービスや介護技術の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協議会に加入し研修などに参加し、相談や意見交換など行っている。管理者は協議会の役員を引き受け活動を通してサービスの質向上に活かすよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、本人・家族に見学や体験入所を勧めている。入院中の場合はホームから面会に行くなど工夫し、ホームに徐々に馴染んでもらうよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から昔の話や鹿児島弁等教えてもらったり、灰汁巻きなどの季節の料理など一緒に作っている。夜勤の時に、やさしい声をかけてもらうこともあり、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情から思いや意向を聞き取り、把握するよう努めている。気づいた事は個人台帳に記録し、朝夕の申し送り等で共有して、本人本位で検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族から意見や要望を聴き、主治医・職員で担当者会議を開催し、本人の意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に、評価やモニタリングを実施し、介護計画の見直しを行っている。状態変化時や家族からの要望があれば、随時計画を見直し、現状に即した介護計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診支援や買い物などの外出支援や通院介助など、家族と相談しながら柔軟に行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。内科・歯科ともに往診があり、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応については、本人や家族の希望があれば、看取りを支援できる体制があり、入居時に同意書も作成しているが、関係者で共有するまでには至っていない。	○	重度化や終末期に向けて、ホームとしての方針を文書化し、本人・家族・主治医・職員・関係者等で、共有することが望まれる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	採用時に誓約書を交わし、プライバシーの確保の徹底に努めている。声かけや対応など、気づいたらお互いに注意しあうなど、入居者の誇りやプライバシーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れは決めているが、起床や食事の時間、一日の過ごし方など、入居者のペースを尊重している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や好みを取り入れた献立を工夫している。野菜の下ごしらえや下膳等、できる事はしてもらい、職員と一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、午後からの入浴を支援しているが、体調や状況によって、それぞれのペースで入浴している。二人で入る人やゆっくり入る人などそれぞれに対応している。温泉に日帰りで出かけ楽しむこともある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	新聞や週刊誌を読んだり、洗濯物の干しやたたみ、モップがけ等、できる事をしてもらっている。ラジオ体操やカラオケなどの楽しみや花見や温泉など気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望にそった散歩やホームの庭のテラスでお茶を楽しんだり、ドライブなど戸外に出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアを徹底している。門扉は幹線道路に面しており、安全の為閉めているが、施錠はしていない。庭が広く開放的であり、閉塞感は感じられない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回定期的に消防訓練と避難訓練を実施している。持ち出し袋は準備している。		災害に備え、水や食糧などの準備に、取り組む事が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの確認はなされていないが、水分や食事量のチェックをして必要量の確保や、刻み・ミキサー食など、入居者に合わせた支援をしている。	○	栄養バランスについて、栄養士などからアドバイス等もらう事が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広くソファが配置されて和室コーナーもある。窓から庭や景色が広がり、開放感がある。天窓には布をかけ、やさしい光になっており、工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやダンス・衣装ケース・ラジオカセットなど、使い慣れた家具を持ち込んでいる。写真や花等飾り、入居者が安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。